



環境教育は未来への種まき 子どもや若者の意識を変える

川平紗代さん 青年海外協力隊(2019年度2次隊ドミニカ共和国派遣)

世界各地、多様な職種で活動する
海外協力隊員の活動をご紹介します！

構成／倉石綾子



上：川平さんが派遣された首都サントドミンゴの、カリブ海に面するマレコン・エリア。右上：地元の小学生に環境教育を行った際の様子。講義後、子どもたちが「家に帰ったら家族にも教えてあげるんだ」と言ってくれたことが思い出に残っている。



観光客のためにビーチクリーニングを
実践するエリアでは、美しい砂浜が広
がっている(左)が、そのエリアを離
れると、ポイ捨てごみや海から漂着す
るプラスチックごみまでが散乱する
(下)。公衆衛生の問題も発生している。



右奥：今年、カカオ市で行った環境教育活動の様子。美化活動の一貫として地元市民と一緒に建物の壁をペイントした。右：実際のビーチクリーニングのひとつコマ。網を使って細かな発泡スチロールのごみを取り除いていく。



ドミニカ共和国 事務所から

さまざまな国で留学・就業経験があり、広い視野をもつ川平さん。ドミニカ共和国はいろいろな環境課題を抱えています。現地の方とコミュニケーションを図りながら、人々の心に残るような活動を成し遂げてほしいと思います。(企画調査員 齋藤さおり)

では、国内の観光地がエコツーリズムを打ち出せるよう、ローカルガイドの環境意識を向上させる取り組みや、コミュニティ内で環境リーダーを育成する活動に取り組んでいます。

ドミニカの人々とはとにかく陽気で親切、そしておしゃべりが大好き。業務上のやりとりも、まずはなんてことのない雑談から始まります。しゃべってばかりと思われがちですが、相手を知り、自分を知ってもらうおしゃべりこそ、人間関係を円滑にする秘訣。他部署にも積極的に足を運んでたくさんのスタッフとおしゃべり

し、仲良くなるよう心がけています。

今後は、環境省主催によりこの秋スタートする、学齢期の子ども向けの環境教育プラットフォーム、「エコクラブ」に参加予定です。子どもたちはいろいろな情報を素直に受け止めてくれますし、子どもに教えたことはそれぞれの家族から地域コミュニティ全体に広まります。つまり、子どもたちをきっかけに街全体の意識を変えることができるのです。子どもや若者の環境意識を高めることは、この国の未来を変えること。環境教育の素晴らしい可能性を再認識するこのごろです。

SMALL TALK

ドミニカ共和国発祥の 国民的ダンス、メレンゲ

カリブ海の国々について思いつくのは、陽気なラテン音楽と情熱的なダンス。ドミニカ共和国には、この国発祥のダンス、「メレンゲ」があります。2ビートの軽快なリズムに合わせ、小刻みに腰を振りながら細かなステップを繰り返すもので、男女がペアになって踊ります。街角に点在する「コルマド」という商店の前で誰かが音楽を流したり、楽器を奏でたりすると、人々が集まってきてメレンゲを踊り始めます。ときにはプロのダンサーが素晴らしいパフォー



マンスを披露することも。2016年にユネスコ無形文化遺産に認定された国家舞踊であり、人々の生活に密着した文化なのです。



もっと知りたい
海外協力隊員の活動

世界各地で活動する海外協力隊員の活動をこちらでチェック

世界から環境弱者をなくしたい!



KAWAHIRA Sayo

出身地：滋賀県 職種：環境教育
任期：2019年12月～



2019年12月よりドミニカ共和国の首都サントドミンゴで環境教育活動に携わっています。カリブ海のビーチリゾートで知られるドミニカ共和国は観光業を中心に経済成長を続けていますが、観光業の発展に伴って環境汚染も深刻化しつつあります。街中ではごみが屋外

投棄されており、適切に管理されていないごみ処分場も目につきます。自治体が行っているごみの回収システムそのものに改善の余地があり、リサイクル率が上がりません。市民に環境保護の意識がないわけではないのですが、それが行動に結びついていないようなのです。こうした課題を受け、一般市民に向けた意識改革や身近な活動に取り組むのが、私たち環境教育隊員です。

赴任当初は現地の上下水道協会に所属して、地域コミュニティの方々と街の清掃活動を行ったり、地元小学校の生徒や一般市民に向けて環境教育を行ったりという活動に従事していました。その後、コロナ禍を受けての一時帰国を経て、今年から環境省にある環境教育部というセクションの所属となりました。こちら